

事業所名 : あお空グループホーム青笹

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390800068		
法人名	有限会社介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム青笹		
所在地	〒028-0503 岩手県遠野市青笹町青笹11-3-11		
自己評価作成日	令和7年9月10日	評価結果市町村受理日	令和7年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が子供を連れてくる事もあり、その際は利用者と話をしたりする事もあるし、職員と利用者が一緒にソファーに座ってゆったり過ごす時間もあつたり、夜寝る前に入浴するなど、なるべく自宅と同じよう雰囲気や生活に近づけるようにしている。  
裏の畑で野菜を作っているの、草取りを手伝ってもらったり、その野菜を利用して食事を作ったり、地域の方からも頂き物をする事があるので、それらも使い利用者にも今の季節を感じてもらっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

遠野市街地の東にある青笹地区にあって、小学校、中学校、保育園、交番、地区センターなどの地域資源が事業所の周辺にある。事業所は2階建ての建物で、1階が小規模多機能ホーム、2階がグループホームになっており、隣接するサービス付き高齢者向け住宅の職員が兼務している事もあり、会議や避難訓練を一緒に行うなど、事業所間での協力体制が取られ充実したサービスの提供が出来ている。周辺の地域資源に所属している方々からいただく、運営推進委員としての幅広い意見や要望は、事業所のサービス向上に活かされている。法人運営本部の理念のもとに、事業所独自の理念や年度ごとの活動目標を設け、利用者へ寄り添った様々な支援が行われている。従前の生活リズムに配慮した夜間時間帯の入浴や、毎週行われる「手作りランチ」、利用者が楽しんで参加できる野菜作りの手伝いなど、事業所として工夫している点も多い。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年9月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入社時に理念の説明を行い、その後も意識して業務を行えるよう、朝礼時に唱和したり、タブレットの待ち受け画面を理念にして、目につくようにしている。	「和・縁・楽」をキーワードとした事業所の理念は開設当初からのものであり、職員間で話し合い、この理念をもとに実践していく事としている。外国人実習生、派遣職員にも詳しく説明し、全職員で理念の大切さの共有を目指して毎朝朝礼で唱和し、職員の名札ケースの裏に入れるなど、またタブレットの待ち受け画面にも取り込み、常に意識しながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	各行事でボランティアで協力していただいているし、地域の施設も行事で利用するなどして、交流を出来るようにしている。	町内会に加入し、青笹地区の回覧物が月2回届くと共に、3ヶ月毎に事業所「あお空かわら版」を区長を通して全戸配布し、写真掲載等の情報発信は、地域の方々にも受け入れられている。利用者も、小・中学校の運動会や小学校の学習発表会見学に出かけたり、保育所園児が来所するなど交流が出来ている。また事業所祭りには地区の方々来所し、中を開放したこともあり、好評であった。インスタグラムを始めたことで、幅広い情報発信に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方にかかわら版は継続して発行している。今年度からは新たにインスタグラムを始め、より幅広い方に対しても情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進委員の方々に様々な意見、アドバイス、疑問点等を言っているため、それらを参考にしながらサービス向上に努めている。	小規模多機能ホームと合同で開催している。委員には区長、民生委員、地区交流施設「わいわい館」の館長、地域包括支援センター、保育所園長、小学校長、中学校副校長、駐在所、利用者家族など、地域に関わりを持っている関係の方々をお願いしている。会議では、各事業所の様子、活動、利用者状況について、看護師や管理者から報告し、それに基づいた提案や助言を得て、運営に活かしている。防災に関しても、協力を頂けるよう働き掛けている。	多方面の方々に参加していることから、参考となる意見やアドバイスを頂くことが多いと思われます。コロナ禍で予定通り開催できない事もあったと思われませんが、今後は2ヶ月毎の開催を目指して取り組んでいくことを期待します。併せて、会議の席で利用者に関する事柄をより多く伝えることが望まれ、検討を進められることが望まれます。

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	遠野市では重層的支援体制整備事業の一環として『まるごと相談員』というのがあり、同地区にも相談員いるので、何かあれば連絡している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し、行政からの情報や助言を頂いている。市の事業に「まるごと相談員」制度があり、地区の相談員に様々な事を持ちかけている。要介護認定申請の手続きや外部評価のため、管理者又はケアマネジャーが直接市役所に出向き、担当課職員に運営状況を報告しながら市の指導、助言を得るなど、相互の協力関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	担当の部会で毎月拘束を行っていない事を確認しているし、施設内でも定期的に研修を行っている。	担当の係員を中心に毎月身体拘束に関する会議を開催し、書面と口頭で報告を受け、それを職員も共有している。毎年実施しているアンケートを通じ、職員の振り返りを通じて明らかになった課題をテーマに研修を実施し、身体拘束をしないケアに努めている。研修は年2回実施し、8月にはスピーチロックについて学び、共通理解を深めている。少しのミスや確認ミスが多く、職員で解消に向けて話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待についても、定期的に研修を行い、自分自身の行動を見つめ直す機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	以前は成年後見人をつけた利用者様もいたが、退所され、現在職員全員が制度に理解しているとは言えない。権利擁護の研修は行っているが、もっと理解を深めていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	文面を見て説明し、納得していただいた上で契約している。特に初回は疑問点や不安な点も多いので、分かりやすい説明を心掛けている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者、ご家族から意見等があった際は、まず職員全員で情報を共有し、そこからすぐ対応出来るものは日を開けず対応するようにしている。	家族からは、面会、通院同行で来所した際や、電話連絡の中からも伺うようにしている。意見や要望などで必要と思われる事項は、職員間で話し合い業務に反映させている。月1回居室担当者、看護師、管理者がコメントを書き、「月まとめ」として利用者に送付し、家族からは感謝の言葉を頂いている。職員は、今後家族の声をいただき易い話し方を検討して行く必要があると考えている。また、利用者からの意見や要望は、日々の会話の中からもみ取り、食べ物に関する要望には毎週の「手作りランチ」などで具体化するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議にて各自意見を述べる場を設けているが、なかなか言いにくい人もいるので、匿名で投函出来る意見箱を設置している。	職員が意見や要望を話せるよう、毎月の職員会議で一人一言の場を設けている。職員の意見は、業務の中や休憩中に加え、年1回管理者との個人面談でも把握している。資格取得の要望には、事業所が受験料等を負担し、合格の際にはお祝いとして商品券をプレゼントしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個人が代表者と話す機会はほぼ無いが、その分管理者が職員の意見を吸い上げ、代表者に伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部の研修に積極的に参加させるようにしているし、施設内でも毎月研修を行っている。研修費等も会社で負担してくれるので、参加しやすい環境である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	花巻遠野地区の地域密着型サービス協会で行っている研修等には参加しているが、そこでのみの交流になっている。		

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアマネが初期の聞き取りを行い、足りない部分は本人と会話する事で、関係性を築いた上で深掘りする様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人同様、初期にケアマネが聞き取りを行い、来所時や電話などでも話をしながら信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	最近では契約前にお試し利用をしてもらっているの、その際本人の様子を見ながら、必要とするものを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一つの場所に暮らす者同士、一人ひとりが出来る事(洗濯たたみ・食器拭き・掃除等)を協力しあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月あお空での日常を写真と一緒に、月まとめとしてご家族に報告している。送付する際、行事や様々なお知らせと一緒に同封し、参加できるご家族様には来ていただいている。		

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自宅にいたとき方、利用していた傾聴ボランティアを今も継続して利用している。 小規模からグループホームに移動してきた方もいるので、合同でおこなっているカフェレク(月2回)での交流も継続している。	小規模多機能ホームとは、月2回合同で駄菓子レク、カフェレクの機会を持ち、交流を深めている。また訪問診療で月1回来所する医師や、毎週月曜日に来所する歯科医も馴染みとなっている。入居前から利用者に関わりのあった傾聴ボランティアが継続して来所しており、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	TVが見やすいようにソファを配置し、利用者は好きな席に座れるようにしている。声を書けないと部屋にこもりがちになる方もいるので、本人の様子を見ながら、声を掛けホールに出てきてもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	近くにお住まいのご家族様は、契約終了後もボランティアや様々な行事に参加したりと、協力して下さる方もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人と沢山会話する事で、希望等は把握できているが、実現がむずかしい事もある。その際は少しでも、本人の希望に添えるよう努力している。	普段の生活の会話の中から要望や希望を聞いている。会話が可能で意向が伝えられる人は7名おり、2名については難しいが、以前話していた内容や仕草をもとに判断し、希望に添えるよう努めている。要望や希望は、毎月のケア会議の中でも話され、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のケアマネから様々な情報を聞き取り、入居以降も、本人・家族と話す機械を作り情報収集に努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	月に一度ケア会議を実施しているが、その時以外でも変化があった場合は、全員で情報を共有し、その方の状態を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	課題がある時は、本人・家族必要に応じてその他関係者と話し合いを行いケアの在り方を決めてきた。また、普段はケア会議で職員一人ひとりが意見を出している。	入居前のアセスメントをもとに3か月のプランを立て、その後利用者の生活状況等を踏まえたプランに変更し3か月毎に見直している。ケア会議にはほとんどの職員が参加し、医師や看護師の助言も入れながら、居室担当の記録や意見をベースに職員全員で検討して作成している。作成したプランは利用者等に説明し、承認のサインを頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の状態によっては、より細かくケース記録に日々の状態を記録し、かつ職員間で口頭でも伝えあい、その日いない職員へは連絡ノートを活用し、全員が情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者・家族どちらの状態・状況が変化しても、ここで対応できるものであれば、その希望に沿えるよう柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	今は傾聴ボランティアのみの利用となっているが、以前来ていただいていた作品(手作りの小物)作りのボランティアの利用を計画しているが、他にもまだ知らない地域資源があるかもしれないので、今いる利用者にとって最適なものを探っていく。		

令和 7 年度

事業所名 : あお空グループホーム青笹

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本的には、今まで通っていた病院の医師を主治医として受診(5名)・訪問診療(3名)していたが必要に応じて適切な病院に変更変更していただく事もある。 体調不良時は看護師から、主治医に連絡し指示を仰ぎケアをしている。	通院している8名全員が入居前からのかかりつけ医を受診している。うち5名は家族が同行し、3名はかかりつけ医の訪問診療となっている。家族同行での受診の際には、看護師作成の連絡票(利用者の様子、バイタル、薬の残量の記載)を医師に渡している。1名は受診を必要とせず、通院していない。体調に変化があった場合には、看護師が主治医の指示を仰いで処置して、適切なケアに努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職は利用者に変化があった際は、看護師へ報告相談し、看護師もすぐ個別に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供は、看護師または付き添いの職員が行っている。入院後は主にケアマネが病院の相談員と連絡を取り合って情報交換・相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	初回契約時に終末期の話はするが、家族も想像しにくいようなので利用者の状態変化に伴い、都度話をするようにしている。看取りも行っていたが、ここ数年はご家族が入院を希望する為、看取りは行っていない。	近年、看取りの実績はない。重度化した場合の対応や看取りについては、利用開始時点や利用者の状態の変化等に応じ本人や家族に説明している。対応にあたっては本人等の希望を最優先とし、地域とのつながりが失われないように配慮することとしている。また、看護師以外にも喀痰吸引等に従事できるよう職員の資格取得を勧め体制の強化を図ることとしている。	

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に施設内で訓練や行ったり、毎年救命講習も行っているが、いざ目の前で事故等が起こると、その通り動けない人もいます。何度も事故は起こらないので繰り返し訓練を行うことを大事にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	業務継続計画(BCP)を元に、研修・訓練を行っているし、今年度は地域の方にも2名だけではあったが、訓練に協力していただいたので、今後も継続しつつ参加人数も増やしていけるよう努める。	防災・施設管理チームを中心に業務継続計画に基づき、研修・訓練を行っている。年2回の合同訓練のほかに毎月ミニ訓練を行い、連絡網の確認や大声を出す訓練なども行っている。合同訓練には消防署の立ち合いのほか、事前に近隣の各世帯を訪問し参加をお願いするなど、地域との連携にも留意している。また、福祉避難所になっていることから、事業所としても認知症等の避難者へ対応できるようにしている。	事業所が2階にあり避難口が限定されていること、防犯上の理由等により夜間は施錠されることから、避難する上での課題等について地域の方々が多く参加している運営推進会議で検討し、今後一層地域住民との協力体制が強化されることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	認知症の進行によるものや、元々の個人の性格によって、気を付ける点が変わってくるので、声のかけ方は職員間で情報共有し気を付けあっている。	誇りを損ねないように言葉かけには十分配慮し、対応している。職員に配慮が足りない場面を目にした時には、管理者が注意喚起し、気付かせるようにしている。耳の遠い方には、耳元で話し、「トイレに行こう」という言葉を使わない誘導を心掛けている。トイレにカーテンを取り付ける等、プライバシーの配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人との会話を大切に、その中から希望や思いを見つけ出し、本人にもしっかり確認した上で、それが叶えられるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	健康的に生活する上での、日々の決まった行動以外はなるべく、その人のペースで過ごしてもらうようにしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分で服を選んでいる方は、季節に合わない・破れほつれ等がない限り、好きに選んでもらっている。介助が必要な方にも、どれがいいか選んでもらう。整容は身だしなみは職員が整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	週に1度は手作りの日を設けているので、その時は野菜を切るのを手伝ってもらったり、旬の食材を使用して季節を感じてもらっている。また、食器・お盆・テーブル拭きなどできる方は一緒にやっている。	本部の栄養士が作成した献立に沿って、冷凍食品が1週間分届いている。週に一度手作りの日を設け、旬の食材を利用し季節を感じ取っていただいている。ひな祭り、七夕、敬老会、誕生会、おせちの行事食は手作りし、畑で採れた野菜や近隣の方々からいただいた食材を調理して提供している。利用者は食材を切ったり、食器拭き、テーブル拭きなど出来る事を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	昼食後にその日の水分摂取量を計算し、少ない時は多めに摂取するよう促している。また、食事量や水分摂取量が少ない方には好きなもの、食べやすい、飲みやすいものを用意し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科診療に来ていただいている先生に、研修していただいた事を参考にしながら、毎食後全員に行ったもらっているが、自立かつ菌が残っている方に対する口腔内の確認は不十分である。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	失敗の多くなった方でも、声掛けをすることで失敗の回数を減らすことが出来ている。	排泄チェック表をもとに、さりげなくトイレへ誘導している。2名が布パンツを使用し、失敗もあるがトイレで自力排泄をしている。他の利用者はリハビリパンツとパットを併用し、夜間のみ1名がオムツ、2名がポータブルを使用している。職員は現状を維持し機能が低下しないよう支援している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日排便確認や乳製品を取り入れたり、水分量にも気を付けた上で、身体も動かす様になっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	毎日3人ずつ入浴しているが、その方のその日の状態により、時間をずらしたり、メンバーを変更したり、柔軟に対応している。以前から行っている夜入浴は継続している。	週2回の入浴を基本とし、毎日3人が入浴している。夜間入浴を継続しているが、入浴を嫌がる方や朝入浴の希望にも柔軟に対応している。入浴は、利用者の体調に合わせて時間をずらしたり、無理強いないようにしている。車椅子の人は、1階の小規模多機能ホームのお風呂を利用して入浴している。着替えの衣服は職員と一緒に準備し、自分で着用している。季節に合わせてゆず湯にするなど、入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その日の体調や利用者の睡眠状態によって、昼寝の有無や時間も調整する様になっている。また、日中の活動(運動やレク)で身体を動かしてもらっている。室温や寝具なども安眠出来るよう気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	新しい薬を処方された時は特に、薬剤情報提供書で注意事項を確認の上、皆で情報を共有し、またそれをいつでも確認出来るようファイリングしている。利用者の状態変化があった際は、先生や薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	今まで好きでやってきた事は継続して行ってもらい、認知症が進行したり、身体機能が衰えてきたことによりはできなくなる事もあるので、その時出来る事や好きな食べ物を提供する様にしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	遠出や希望の日の外出は出来ていないが、対応できる職員がいる時は、ドライブ・散歩などに出掛けるようにしている。	天気の良い日は1階に降り、玄関で日向ぼっこをしたり、草取り等の畑作業で戸外に出るなどして、気分転換をしている。運転免許のない職員も多く、なかなか外出は難しいが、職員の体制が整った時には、遠野市内、産直、桜見物、ひまわり畑などへ出かけている。月1回の外出と、これから見頃となる「仙人峠の紅葉」見物について検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	全員お金はこちらで預かっているが、その中で本人が希望するものを、職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙のやり取りは無いが、電話は希望があればつなぐ事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに装飾を変化させ、今の季節を感じ取ってもらえるようにしている。本棚を置き、利用者が好きな時に好きな本を手にとって読めるようにしている。	共用スペースは広く、陽の光が差し込み明るい空間となっている。室温もエアコン、サーキュレーター、加湿器で管理され、快適な居住空間となっている。ぶどう等の装飾で季節を感じるができるように努め、壁面には利用者作成の「ぬり絵」や行事の写真が飾られている。本箱が設置され、利用者は好きな本を選びながら読んでいる。テーブル3台と大型ソファ3台が配置され、利用者は思い思いの場所で時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	皆がソファにいるなら、食事用テーブルの方にいるなど、それぞれが好きな場所で過ごせるようにしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている。	自宅で使っているものを持参されたり、使いやす いようにしているが、身体状況や認知症の進行 によっては、安全優先で配置を変化させたり、撤 去をお願いすることもある。	居室には、ベッド、クローゼット、エアコンが設置 され、布団、衣装ケース、テレビなど、必要なもの を持ち込んでいる。壁面には誕生日会のプレゼント の寄せ書きを飾り、居心地よく過ごせるよう配置 している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫してい る。	手すりの所など一人でも安全に歩行できるところ は、何も置かないようにしている。また、好きな時 に安全に本を取り出したり、塗り絵をしたりできる ような所に置いている。		